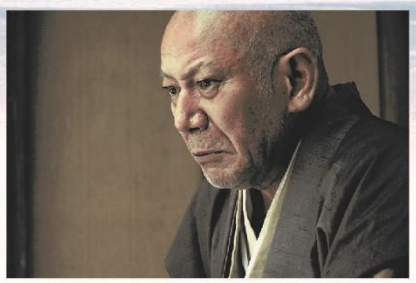
仏の教えの第一は「不殺生（ふせっしょう）」
人の命を損なう戦争は罪悪である

明日へ
―戦争は罪悪である―

◆あらすじ

2015年の秋、安保法案に反対する国会前のデモの様子がテレビのニュース番組で放映されている。長年、高座で反戦平和を語り続けてきた落語家、金山亭我楽こと尾藤純次（岡本富士太）は、98歳になった今、老人ホームで居ても立ってもいられず車椅子でデモに参加しようとするが、介護士の由希奈（松本ふみか）に外出を止められる。戦争を知らない世代の由希奈に、純次は噺家への道を開いてくれ師匠とも仰いだ一人の僧侶・杉原良善（中原丈雄）のことを語り始める。

1932（昭和７）年、日中戦争から太平洋戦争に向かう戦争の時代。瀬戸内海に浮かぶ小島に暮らす13歳の純次（松田優佑）は落語好きな少年だった。純次の父親は落語よりも学校の勉強に専念するよう諭してもらおうと良善の寺を訪れる。ところが良善は、純次に落語をやるよう逆に背中を押してくれる。やがて東京に出て落語家になった純次（小倉レイ）は、20歳となり出征の日を迎える。島での出陣式で、良善は突如「戦争は罪悪で人類に対する敵、すぐにでも止めたほうがええ」と村人を前に語り始め、純次たちを驚かせる。それまで戦争に協力する説教を語っていた良善のこの変化には何があったのか……。



戦争への悪縁を潰しましょう

花園大学総長　河野太通

1930年、大分県生まれ。龍門寺（兵庫県姫路市）住職。臨済宗妙心寺派前管長。全日本仏教会元会長。

この作品の台本を読んで泣いてしまった。あの時代に、このような良心の人、慈悲の人、まことの仏教者の居たことに。戦前・戦中を軍国少年で過ごした私は、救われる思いをするのである。

今、かの戦争にころがっていた日本の社会状況と同じだという危機感を持たざるを得ない。是非、この映画をご覧いただいて、悲惨な過ちをくりかえすことになる悪縁を潰しましょう。

●かいせつ

この映画のモデルは、大戦中、「戦争は罪悪である」と断じ、国家と宗門から処断された、大谷派僧侶の竹中彰元氏です。竹中氏は、大戦当初、国や本山が唱える「正義の戦争」に賛同し、布教師として多くの信徒を積極的に戦地へと送りだしていました。 しかし、戦争が生み出す現実から「戦争は罪悪である」と気づかされた時から、僧侶としての懺悔の日々が始まったのです。

この映画はドキュメンタリーではなく、あくまでも創作されたものです。登場する僧侶も大谷派僧侶ではなく禅僧となっていますし、舞台も竹中氏の出身地である岐阜ではなく瀬戸内海の島ですが、竹中氏の葛藤は十分に観る人の心に伝わってきます。そして、私たちの「明日」をも考えさせてくれる映画にもなっています。

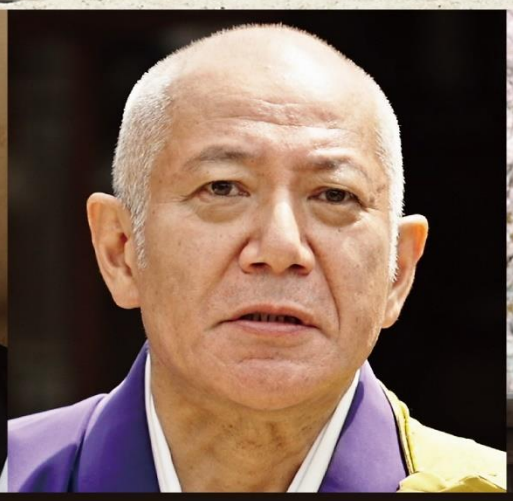
日時 ： 2018 年 12 月 9 日(日)　　一回目　14 時 30 分　上映開始
16 時 20 分　アフタートーク
二回目　17 時 00 分　上映開始
18 時 40 分　アフタートーク

会場 ： 金沢東別院 真宗会館 1 階ホール　　金沢市安江町 15-52（横安江町）

入場無料　別院内に無料駐車場あります

問い合わせ先 ：　常照寺 佐藤　076-275-2351　、徳法寺 杉谷　076-241-5219

主催　真宗大谷派金沢教区　心の相談室



老いた落語家が語り継ぐ、叛骨の僧侶の言葉

中原 丈雄

小倉 レイ　松田 優佑　小酒井 円葉　奥山 琴夏　石住 昭彦
江村 修平　上杉 陽一
関 貴昭　東房 大河　谷川 清美　西村 諭士　森崎 清
小倉 一郎（特別出演）　森澤 匡晴　山中 雅樹

上條 恒彦

勝部 演之　渡辺 穣　松本 ふみか

岡本富士太

eiga-ashitae.com

［監督］藤 嘉行
［企画・製作］小室 皓充　［脚本］土屋 保文
［音楽監督］遠藤 浩二　［撮影］瀬川 龍（J.S.C.）
［照明］佐藤 宗史　［録音］飴田 秀彦　［美術］中谷 暢宏
［助監督］桑原 昌秀　［編集］川瀬 功（J.S.E.）　［記録］吉田 純子
［メイク］葉山 三紀子　［スタイリスト］村島 恵子
［ラインプロデューサー］須永 裕之

［製作］日本の青空シリーズ
『明日へ―戦争は罪悪である―』製作委員会
（小室 皓充　滝元 将　一芝 竹夫　平野 寛）

映倫 EIRIN

© 日本の青空シリーズ「明日へ－戦争は罪悪である－」製作委員会